

教科	工業		科目	デザイン実践	単位数	2 単位	学年	1 学年
学科	繊維デザイン	コース		教科書	デザイン実践（実教出版）			
副教材								
学習目標	1. デザインについて社会や生活との関係を理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2. デザインにより解決できる課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決する力を養う。 3. デザインによる豊かで快適な生活空間を構築する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。							

		学習内容	学習活動・学習の狙い	評価の観点			備考
				知技	思考	主体	
1 学期	4 月	第3章 ビジュアルデザイン 第1節 ビジュアルデザインの概要 第1 ビジュアルコミュニケーションのはじまり	・視覚伝達が人間の情報交換に果たした画期的な効果を理解し、現代社会におけるその重要性を理解する。 ・ビジュアルデザインの構成要素としての文字、シンボル、イラストなどの活用について理解する。	○	◎	○	・デザインに関する一般的な認識と専門的な認識の相違に気付かせ、関心を高めるよう留意する。
	5 月	第2 構成要素とは 第2節 グラフィックデザイン 第1 グラフィックデザインとは 第2 広告デザイン 第3 編集デザイン	・グラフィックデザインがビジュアルデザインの最も一般的な分野であることを理解する。 ・各種の広告デザインの目的、構成要素、製作手順を知り、その広がりや重要性を理解する。	○	◎	◎	
	6 月	第4 デザインと写真 第5 デザインと印刷 第3節 パッケージデザイン 第1 パッケージデザインとは	・グラフィックデザインに利用される写真の効果や、印刷物にするための印刷方法について理解する。 ・内容物を保護するパッケージが持つ基本的な意味とパッケージが持つ様々な機能について理解する。	○	◎	◎	
	7 月	第2 パッケージの材料と適性 第3 パッケージの展示効果 第4節 情報とデザイン 第1 コンピュータとデザイン	・パッケージ制作のための材料の種類やその特性について理解する。 ・デザインに活用されるソフトについてその利用方法を理解する。	◎	◎	○	
				◎	◎	○	
2 学期	8 月	第4章 プロダクトデザイン 第1節 プロダクトデザインの概要 第1 プロダクトデザインの意義 第2 プロダクトデザインの領域 第3 プロダクトデザインの要素	・プロダクトデザインを工業製品などのデザイン制作の視点でとらえ、その意義を理解する。 ・工業製品と生活環境の関連性について理解し、社会や生活における諸課題をデザインによって解決する方法について学ぶ。	○	○	◎	・参考となる製品や、環境汚染の情報をもとに身近な事物としてとらえられるよう留意する。
	9 月	第2節 インダストリアルデザイン 第1 インダストリアルデザインとは 第2 生活機器のデザイン 第3 産業機器のデザイン	・インダストリアルデザインの分野について理解し、作る側と使う側の観点が一不可離の関係が大切であることを理解する。 ・工業製品の廃棄による環境問題にも目を向け、その処理方法や材料の開発について考える。	○	○	◎	
	10 月	第3節 繊維・服飾デザイン 第1 テキスタイルデザインとは 第2 織物 第3 染色 第4 服飾	・人間の生活に欠かせない染・織が、その国の文化や風土に根づき発展していることを理解する。 ・衣服から始まった染・織に対する欲求が、様々な用途へと発展したことを知り、テキスタイルの持つ可能性について考える。	◎	○	◎	
	11 月	第4節 工芸品のデザイン 第1 工芸品のデザインの概要	・工芸品と、大量生産される工業製品との違いを理解し、工芸品が持つ地域性、素材や伝統的な加工について、その歴史とともに理解を深める。	◎	○	○	
	12 月						
3 学期	1 月	第5章 環境デザイン 第1節 環境デザインの概要 第2節 住空間のデザイン 第1 日本の住居 第2 住空間計画 第4 内部空間	・快適な生活に必要な要素を考慮しながら、生活環境に潜む問題点を発見し、よりよくするためのデザインについて考える。 ・私たちの生活を豊かにし、生活の中の諸問題を解決するための内装や、家具のデザインについて、そのアイデアについて考える。	◎	○	○	・実際に家具のミニチュア制作を行うことでそれぞれの知識を実感できるように留意する。
	2 月	第3節 公共空間のデザイン	・公共空間の利用方法や、環境、人、建築物との関係等について考え、公共空間をどのようにデザインしていけばよいかを考える。	○	◎	○	
	3 月	第4節 都市空間のデザイン	・都市の持つ問題点を推測し、その対策としてデザインによる解決方法を考える。	○	◎	◎	
							・体験をもとに新しい知識や思考に繋がられるように留意する。

※ 評価の観点欄は、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。

評価方法	・ 考査評価、提出物評価、学習の取込み状況評価などの総合評価とする。 ・ 平常時の授業態度、意欲等の授業に対する取り組みについても評価する。
------	---